

ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【布目ダム】

平成25年 3月

水資源機構 関西支社

【布目ダム】

1. 事業の概要

特になし

2. 洪水調節

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
2.6 副次効果 本編 P2-29	・洪水調節において、ダムが家庭ゴミの捕捉にも役立っているというのは、どのようなゴミのことか。また、その処理は誰の責任か。	・流木とともに上流から流れ込むペットボトルや発砲スチロール等のゴミで、不法投棄されたゴミではないので、誤解されないよう表現を修正する。貯水池に流れ込んできたゴミであるため、その処理はダム管理者の責任となる。 【委員会の意見により修正】 ・本編P2-29の「家庭ゴミ」を「河川ゴミ（発砲スチロール等）」に修正。	—

3. 利水

特になし

4. 堆砂

特になし

5. 水質

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.6 水質保全設備の評価 本編 P5-118	・副ダムによる水質保全効果として、どのように定量的に把握するかが重要である。洪水のときに上流河川から栄養塩類を吸着した浮遊性の細流分が流れ込むが、その総量に対してどの位のものが捕捉されるかを把握する必要がある。室生ダムが良い事例と考えられる。L-Q式が正しければ副ダムにおいて栄養塩類を何%除去できたかを求めることができる。	・室生ダムを参考に出水時の調査を行い、分析することを検討する。	・出水時調査によりデータ蓄積に努める。

6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.3 生物の生息、生育状況の変化の検証 本編 P6-69, 90, 211	・タモロコの増加が、「産卵期の貯水位上昇により産卵に適した植物が冠水したことが原因」とあるが、これだけが増加の原因とは言えないのではないか。	【委員会の意見により修正】 ・本編P6-69の「要因としては、副ダム貯水池は外来種が生息しにくい環境であること、産卵期（4～5月）のまとまった雨により貯水位が上昇し産卵に適した植物体が冠水すること等が考えられる。」を削除。 ・本編P6-90表6.3.1-18(1)「優占種の経年変化」生物の変化と状況の「タモロコは特に副ダム貯水池で大きく増加している。」を削除。同表「優占種の経年変化」検証結果を「タモロコは特に副ダム貯水池で大きく増加している。また、副ダムで増加したタモロコが本貯水池に供給されることにより、本貯水池の個体数も増加していると考えられる。」に修正。 ・本編P6-211表6.4.1-1(1)「優占種の経年変化」評価結果の「しかし、当ダムでは、副ダム貯水池での在来種タモロコの繁殖有利性が発揮されて、外来種による優先を免れている。」を削除。	—
6.3 ダム湖内における変化の検証 本編 P6-72	・ワカサギの卵放流という表現は、ワカサギ発眼卵の放流と修正すべきである。	【委員会の意見により修正】 ・本編P6-72の「卵放流」を「発眼卵の放流」に修正。	—

6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.3 ダム湖内における変化の検証 本編 P6-73	・「オオクチバスの割合が増加しているのは、副ダム貯水池で繁殖したギンブナやタモロコの仔魚が本貯水池内に侵入し、餌となっていることも一因」とまとめられているが、ワカサギを餌としている可能性もあり、いろいろな要因が考えられ断定できないのではないかと。	【委員会の意見により修正】 ・本編P6-73の「オオクチバスの割合が増加しているのは、副ダム貯水池で繁殖したギンブナやタモロコの仔魚が本貯水池内に侵入し、餌となっていることも一因として考えられる。」を削除。	—
6.3 ダム湖内における変化の検証 本編 P6-73	・「放流が確認されているニジマスについては、国内外来種として示した」とあるが、「国内外来種」という表現は、他の地域からの移植であればすべての放流魚が対象となるので削除した方がよい。	【委員会の意見により修正】 ・本編P6-73の「なお、放流が確認されているニジマスについては、国内外来種として示した。」を削除。	—
6.3 下流河川における変化の検証 本編 P6-133, 154, 246	・下流河川においてカワムツが増えた要因を土砂還元の効果としているが、流入河川においてもカワムツは増えており、土砂還元の効果だと言い切れないのではないかと。	【委員会の意見により修正】 ・本編P6-133、定期報告書P6-154 表6.3.3-25(2)検証結果の「オイカワが減少し、カワムツが増加することは、流入河川と同様に水際に草や柳などの植生があり、底生動物がより多い河川環境へと変化していることが示唆される。また、カワムツが増えた要因は、ダム下流における土砂還元の効果が一因とも考えられる。」を「下流河川は流入河川と同様に、水際に草や柳などの植生があり、底生動物が多い河川環境となっており、生息している魚類相に影響している可能性がある。」に修正。 ・本編P6-246の「土砂還元の取り組みにより、ダム下流に細粒土砂が供給されていることから、細粒土砂の増加と魚類の再生産に相関があるといえる。」を「土砂還元の取り組みでは、ダム下流に細粒土砂を供給しているが、この行為は生息している魚類相に影響を与えている可能性がある。」に修正。	—
6.3 下流河川における変化の検証 本編 P6-124	・アライグマが新たに確認されていることは問題である。奈良県はアライグマが確認されていることを把握しているのか。	・奈良県に報告している。	引き続き奈良県に情報提供を行う。
6.4 ダム湖内の生物の生息・生育状況の変化の評価 本編 P6-211	・魚類のまとめで、在来種の保全と生物多様性保全に取り組む必要があるとまとめられているが、生物多様性の保全とは在来種の保護や、種の多様性や生態系の多様性などが含まれる。そのような対応を全て取組むという意味ではないならポイントを絞ってまとめた方がよい。なお、魚類の生息状況のまとめの表現については、猿谷ダム同様、チェックしたものを渡すので、見直して欲しい。	【委員会の意見により修正】 ・本編P6-211表6.4.1-1(1)「ダム湖内を主な生息環境とする魚類の状況」評価結果の「…在来種の保全と共に生物多様性の保全に取り組む必要がある。」を「…在来種の保全に取り組む必要がある。」に修正。 同表「ダム湖内を主な生息環境とする魚類の状況」今後の方針の「かつて放流されたコイ科魚類を意識しつつ、」を削除。 ・その他指摘の誤字等を修正	—

7. 水源地域動態

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
7.7 ダム湖利用 実態調査 本編 P7-41	<p>・ダム湖利用実態調査結果で釣りが利用状況のメインになっている。ダムの見学者や貯水池等の利用者が増加することは、水源地域ビジョンとしては評価できることかもしれないが、外来魚の増加やゴミの増加など環境に対するデメリットはないのか。</p>	<p>・ブラックバスなど生態系にはよくないこともある。ゴミについては不法投棄が少なく、ダム周辺の山添村等地域の方々の清掃活動で、木津川ダム総合管理所が所管している5ダムの中では少ない方である。</p>	<p>—</p>
7.9 まとめ 本編 P7-51	<p>・地域で清掃などの活動が行われているのであれば、評価軸として山添村の人々の活動も入れると良いのではないか。</p>	<p>【委員会の意見により修正】 ・本編P7-51まとめの3つ目の文章を「布目ダムクリーンキャンペーンや不法投棄のパトロールなど、地域住民や漁業組合の自主的な清掃活動により、貯水池周辺の環境への配慮が高まっている。」に修正。</p>	<p>—</p>